

記録的な猛暑が多くの業種に影響を与える

7月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

記録的な猛暑が多くの業種に影響を与えている様子がうかがえる。その他、依然として原材料や燃料価格の高騰、人手不足が続いており、幅広い業種で収益の悪化に苦しむ状況が見受けられる。一部の業種では、西日本豪雨災害の影響も見られる。総じて、景況は足踏みの状況が続いている。

製造業	食料品		パン・菓子は、猛暑の影響で客数が激減、売上が大きく落ち込む。製麺は、猛暑の影響で一部の大手企業が好調となっているが、中小企業は原材料や燃料価格の高騰・人手不足により厳しい状況が続く。酒造は、本醸造酒の売上が大きく減少。食肉は、猛暑の影響で豚の出荷頭数が伸び悩んだことで、売上減少となる。
	繊維・同製品		桐生織物は、婦人服地が前年同様の引き合いとなっているが、猛暑の影響で和装織物が苦戦、輸出向けは依然低調。伊勢崎織物は、「広巾」が順調な売上を維持している一方で、「小巾」の需要が低迷。ニットは、暑い日が続いていることによる冬物商戦への影響を懸念。繊維製品は、猛暑による客数の減少で景況悪化。
	窯業・土石製品		生コンは、県央部と東毛地域の出荷が大きく落ち込んでおり、前年より悪化。コンクリートブロックは、猛暑の影響で出荷が順調。コンクリート製品は、依然として原材料価格の値上がりや製品価格に転嫁できない厳しい状況が続く。砕石は、八ッ場ダム関連が好調な一方、その他の地域は厳しい状況となっている。
	機械・金属		自動車関連は、繁忙により人手不足が一層深刻化している。SUBARU関連は、7月に発売となった新型フォレスターの生産で好況。電機関連は、景況感は悪くないものの、人手不足と部品や材料の入手難が収益を圧迫している。鍍金は、半導体・自動車部品・電子部品関連が好調、景況感に明るさが見られる。
	その他の製造業		木材は、良好な荷動きとなっているが、原木不足と人手不足により生産性がダウン。印刷は、受注の増加が見られ、安定した推移となっている。紙加工品は、一部の食品関連を除き、低調な受注状況となっており景況感に明るさが見られず。ゴム製品は、売上・収益ともに前年並に推移、大きな変化は見られない。
非製造業	卸売業		高崎卸団地は、売上・収益ともに前年並みに推移している状況。前橋卸団地は、依然として原材料価格の高騰と人手不足の状況が続いている。農産物卸は、猛暑の影響で品薄状態となっているが、消費の減退もあり極端な価格高騰にまでは至っていない状況。水産物卸は、暑さの影響で売上の減少が見られる。
	小売業		家電小売は、猛暑の影響で夏物商戦が活発化、大幅な売上増加となる。中古車オークションは好調に推移。燃料小売は、依然として販売価格の上昇が続いており、今後の需要の減少を懸念。生花小売は、記録的な猛暑により売上が低迷。商店街は、多くの地域で猛暑による来街者数の減少が見られ、売上低調。
	サービス業		温泉旅館は、猛暑の影響で全体的に入込客数の減少が見られるほか、一部地域では豪雨災害により西日本方面からのツアーキャンセルも発生。吾妻地域における不動産取引は、取引の中心である別荘需要が低迷し、低調な取引状況となっている。自動車整備・建築設計は、売上・収益ともに前年並みに推移。
	建設業		建設工事は、公共工事、民間工事ともに減少し、売上・収益ともに減少となる。解体工事は、ブロック塀やタイルの解体工事が増加しているが、暑さの影響で工事の遅れが目立っている状況。電気工事は猛暑による作業環境の悪化を懸念。塗装工事は、猛暑による熱中症対策の経費負担の増加が収益を圧迫。
	運輸業		猛暑の影響で飲料水関係の荷動きが好調となる一方、野菜関連の輸送が落ち込んでいる。また、西日本豪雨災害の影響による長距離輸送の増加により、一部で車輛不足の状況が見受けられる。小口配送は、前半は荷動きが鈍かったが、後半に遠方輸送が増える等の動きが出たことから売上高・件数ともに前年並みとなる。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 108.7(前月比▲0.5%)「県統計課・6月」
- 住宅着工戸数 1,166戸(前年同月比▲22.4%)「県建築住宅課・6月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.09倍:有効1.68倍「群馬労働局・6月」
- 大型小売店販売額 203億円(前年同月比+2.9%)「経済産業省・6月」
- 消費者物価指数(全国) 100.9(前年同月比+0.7%)「総務省統計局・6月」
(鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)